

親子で水に親しみ学ぶ

かわあそびin五ヶ瀬川 延岡

延岡

川に入る時は誰でもライフジャケットを着ることが大原則。泳ぐつもりはなく、子どもを見守る目的で膝ぐらいまでしか入っていない保護者にも着用品を徹底させた。溺れそうになった時は慌てずに、おおむけになって浮かぶのが基本。おおむけになって力を抜くと体が浮かび、潜らかに流れていく。子どもにはその練習も楽しく、上流まで移動しては繰り返して遊んだ。頭を上げようとして力が入り、うまく流れていけない子を見ると、頭を上げたら駄目だよとアドバイスする子どもも見られた。

「かわあそびin五ヶ瀬川」が5日、延岡市松山町の五ヶ瀬川河川敷で開かれた。子どもが川遊びできる環境を取り戻したい」と願い、そのためには川遊びの経験がない保護者に川で安全に遊ぶためのルールを身に付けてもらおうと開かれた。第5回お父さんお母さんのための川遊び村」が合体。家族連れを中心に大勢が川遊び、学んだ。GOKAS川遊び推進協議会(佐伯卓信会長)主催。



「水流体験ゾーン」はウォータースライダー



ペットボトルボートに乗って遊ぶ子どもたち

延岡市消防本部による心肺蘇生法講習会も開かれ、国交省延岡河川国道事務所が排水ポンプ車を使って設けた「水流体験ゾーン」網の袋にペットボトルを詰めて作ったペットボトルボート、水

生物調査コーナーなども人気。好天に恵まれて午前9時には気温が30度を超える中、求場寺川の中で涼しく、さまざまな企画を楽しんだ。千葉県から延岡市の租



水生生物調査コーナー



河川敷の水鉄砲コーナーで遊ぶ子どもたち



心肺蘇生法にチャレンジする子ども

父母宅に滞在中、家族5人で参加した齋藤駿汰君(6)はスライダー(水鉄砲体験ゾーン)が面白かった。父親の友紀雄(44)は川で遊ぶこととはなかなかできないのでもやってみようと思った。いい経験になった。